

ガルフ危機は、米帝がいつイラクに対する軍事的攻撃を開始してもおかしくない態勢に入りつつ膠着状態が続いている。そして、米帝は戦闘部隊を中心にさらに二〇万人を増強すると発表し、大規模な上陸作戦を含む軍事演習を開始しようとしている。

膠着状態が続いているガルフと対照的に、レバノンではついに膠着状態が打ち破られた。一

○月一三日、シリア軍の全面的な攻撃で大統領官邸バーブダに居座っていたアウンはまたたく間に駆逐され、それから一ヶ月も経たない今、大ベイルート地区セキュリティプランの実行―

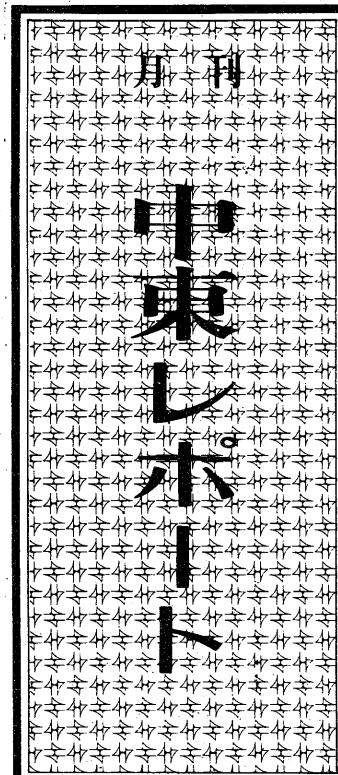
一 ガルフへさらに増強する米軍と国際的合意を画策するブッシュ

中央政府の主権確立の方向へ確実に動きはじめている。

今月は、主要にこのガルフとレバノンの現局面に対する各国の対応・思惑に焦点を合わせて報告をする。

## ガルフ危機の切り開いた 新しい局面とレバノンの再建

一九九〇年一月一〇日



### 第62号

発行 ウニタ書舗  
東京都千代田区神田神保町1-52  
TEL. (03) 291-5533  
編集 J.R.A.  
郵便振替 東京1-48443  
三菱銀行神保町支店 当座9012656  
会員制 年会費24000円

目次	ガルフ危機の切り開いた新しい局面と レバノンの再建
資料	・エルサレムでの虐殺非難声明 ・独立二周年記念声明 ・新しいレバノンとパレスチナ人の役割 ・アマルとハズバッラーの和平合意 ・赤軍声明
重要日誌（一九九〇年一〇月一一日）	一一月一〇日
編集後記	15 14

二〇万体制になれば、イラクに対する軍事的攻撃体制に入れるとして、米軍のガルフ駐留総員はすでに二三万になっている。ソ連のプリマコフ特使による和平解決に向けた調停が失敗した一〇月末から一一月にかけて一挙に軍事的な緊張が高まった。しかし、ベーカーが中東・欧州七カ国を歴訪し、武力行使の一般的合意を取りつけたが、即行使とはならなかつた。なぜか？ 米軍が攻撃しにくい主要な要素としては、

第一に、被害を最小限にし確実に軍事的に勝利すると見通せていないこと、軍事指揮体系の一本化もできていないことである。被害を最小限にすると、少なくとも米軍側に五〇〇〇人の戦死者が出ると予測されている。かつ

け込んだ。そして、二時間後には、配下の将兵に對して投降を呼びかけたのである。それはあまりにあつけない幕切れであつたと同時に、新しい幕開けでもある。新しい幕開けとは、昨年一〇月に決定されたタイフ合意に沿つたレバノンの再建のスタートである。その第一段階は、大ベイルート地区セキュリティープラン（治安回復計画）の実施＝合法的中央集權の主権確立の開始である。

九月、ベーカーがシリアを訪問したとき、ガルフ危機へのシリアとの協力問題と同時に、レバノンの安定化に向けた米－シリアの合意が作られたといわれ、対アウン戦の武力行使は、時間の問題といわれていた。

しかし、旧宗主国仏のバックアップを取りつけているアウンは相変わらず強気に対応し、タイフ合意そのものが無効であり、それに沿つたバラウイ政権の議会改革案は、キリスト教徒＝レバノン人民への裏切り行為として非難していく。一〇月一日からバラウイ政権の要請を受

ダニー・シャムーンはアウンの裏切り行為を激しく非難した（ダニー・シャムーンは妻子ともども、二一日、自宅で暗殺された）。

いずれにせよ、アウンの駆逐によって、七五年の四月以来続いたレバノンの内戦は、正常化の端緒が切り開かれている。

ハラウイ大統領は、シリア訪問後、一〇月二十四日にベイルートの民兵解体と合法政権下の統一計画を発表している。それは、

①民兵解体の内容は、民兵による検問と道路の明け渡し、民兵事務所の閉鎖、武器の持ち込みと非合法武器の禁止、民兵運営の港・公共施設・ビルなどの合法政権による再コントロールの確立、民兵による税金徴収の禁止、武器・麻薬等の輸出入の禁止、法律違反に対する取り締まり・処罰の実施等など。

②大ベイルート地区の範囲は、北はカルブ川、南はダムール川、山岳部はビクフアイア、ベイトリメリ、アレイ、スークルガルブを結んだライント内である。

パレスチナ勢力については、民兵勢力との交渉を担当している二人委員会の一人ダロール農相が、「（〇月）二六日「現在は、レバノンの民兵問題が第一であるが、パレスチナ勢力については、キャンプ外での武装は許されないだろう」と発表。在ダマスカスの米大使がレバノンでの法と秩序の回復には外国勢力も対象とすべきと発言したのに對して、パレスチナ勢力はいっせいに反発。ハラウイ大統領も、「パレスチナ人の武装存在を認めない」という発言をしたり、取り消したり、まだ決定されてはいない。イスラエルとの関係があるのでパレスチナ問題には当面触れず、まずレバノン民兵のコントロールを先行するといわれている。

こうした一連の動きのなかで、アウン追放、大ベイルートセキュリティプランの実施という現状は何を意味するのか？

まず、シリアのレバノン政策が成功したということである。それは、たんにレバノンのキリスト教徒民兵やアウンに対し勝利したという

# ント南 ま薬の設みの

①民兵解体の内容は、民兵による検問と道路明け渡し、民兵事務所の閉鎖、武器の持ち込みと非合法武器の禁止、民兵運営の港・公共施設・ビルなどの合法政権による再コントロール確立、民兵による税金徴収の禁止、武器・麻薬等の輸出入の禁止、法律違反に対する取り締まり・処罰の実施等など。

②大ベイルート地区の範囲は、北はカルブ川、はダムール川、山岳部はビクファイア、ベイメリ、アレイ、スーケルガルブを結んだライ内である。

の武装存在を認めない」という発言をしたり、ラエルとの関係があるのでパレスチナ問題には当面触れず、まずレバノン民兵のコントロールを先行するといわれている。

こうした一連の動きのなかで、アウン追放、大ベイルートセキュリティプランの実施という現状は何を意味するのか？

まず、シリアのレバノン政策が成功したということである。それは、たんにレバノンのキリスト教徒民兵やアウンに対し勝利したという

石油施設に対する破壊攻撃をどれだけ防げるか。  
これまで可能か、さらに軍事的にはクウェートの  
解放はバグダッドに対する攻撃なしには困難で  
あり、全面戦争を覚悟しなければならない等  
被害を最小限にして確実に勝利することは困難  
な要素が多い。もちろん、米軍が勝利することは  
ができるだろうが、かなりの犠牲を覚悟しなければ  
ならないということである。さらに、指揮  
権の問題である。ベーカーのサウジ訪問で、サ  
ウジ領内ではサウジ軍が指揮をとり、領外では  
米帝軍がフリー・ハンドという確認を行った。だ  
が、米軍の指揮下で動くことに合意して派兵し  
ているのは英軍のみで、アラブ合同軍はイラク  
攻撃には参戦しないと表明しており、从軍は前  
線から引いている。それでも、軍事的勝利の公  
算が高ければ米軍のみでもやるだろうが、国際  
的な合意と共同という形で展開できないことは  
政治的なマイナスである。

第一に、イラク攻撃の国際的・国内的合意が  
まだ作れていないこと。フランスは経済制裁が  
有効に作動しているという立場をとっている。  
アラブ合同軍を形成しているエジプトとシリアは  
イラクが攻撃してくればサウジなどを防衛す  
るが、イラク攻撃には参加しないことを再三明  
めている。GCC諸国は、戦争になれば産油  
施設の破壊と政権の不安定を結果するので、平  
和的な解決を望む声が大きい。産油国にとって  
実はガルフ危機によって原油価格が値上がりす  
るのは願ってもないことである。それぞれの

経済的な利害がイラク攻撃の合意つくりを困難にしているのである。それでもブッシュは、議会内の反対の圧力を受けつつ、今国連という国際的な枠組みのなかでイラク攻撃の合意を取りつけようとしている。米ソマルタ会議で戦後世界秩序の枠組みが解体しそ連が米帝との協調路線を取っている現在、国連は米帝にとって格好の米ソ協調での（その実、米帝の主導権の下で）世界支配の道具となっている。ブッシュ政権の特徴は合法性・「正義性」を楯にして軍事力を行使していることである（パナマ侵略が典型例である）。しかし、これまで必ずしも米帝による合意取りつけはうまくいっているわけではない。そして、時間が経てば経つほど帝国主義側の足並みは崩れていく可能性が高まっていくであろう。

第三に、「人質」問題である。「人質」の存在が、軍事的な攻撃をやりにくくさせていることは事実である。さらに問題なのは、帝国主義側の足並みの乱れが、「人質」釈放問題にすでに表れていることである。米軍が攻撃態勢に入つたといわれる一〇月末から一月にかけて、イラク側は「人質」釈放による帝國主義側の分断をはかった。すでに釈放となっているフランスに統いて、日本の中曾根、ドイツのブランドを招待し、「人質」の部分釈放を行つたのである。これに対して、ブッシュとサッチャーは「抜け駆け」を非難し、「団結」の確認をしたという。米帝は、「人質」問題で、足並みの乱れをもつとも警戒しているのである。

これらの不安定要素は、いつでも米帝次第で軍事的に攻撃し得る緊張が持続しつつ、長期化する可能性を大きくするものである。だが、長期化すればするほど、ブッシュにとっては政治的経済的に困難になっていく。そして、このガルフ危機は米帝の力の衰退を逆に示していくものになる。

米帝の、もともとの最大の狙いは、ガルフ産油地帯そして中東全域の支配である。そのためにも、これまでサウジをはじめガルフの長期駐留体制を確保しようとしてきた。今回、その悲願がイラクのクウェート侵攻・併合を契機に実現した。そして、このイラクの展開をめぐってアラブ世界の分岐が大きくなつたことは、米帝の中東支配にとって願つてもないチャンスとなつてゐる。だが、他方において米帝にとって、戦争・軍事的対峙の長期化は政治的にも経済的にも大きな負担を背負いこなさざるをえないものである。かつての冷戦構造においては、軍需産業に対する投資が経済的な活性化につながつていたが、今や財政赤字を増大させインフレ不況を準備するだけである。そして、再び戦争による犠牲を出すことに米国内での反対の圧力は高まる一方である。その打開を、同盟国とりわけ日帝やEC諸国の共同援助を引き出すこととアラブ内の関係性を強化することに求めるであろう。

う暴力的かつ非妥協的になつてゐる。国際的な焦点をガルフ問題から再びパレスチナ問題にあつてのことになった。国連安保理事会は、米帝も含めて、この虐殺事件でイスラエルを非難、事実調査団を派遣することを一〇月一二日決定したが、イスラエルのシャミール政権は受け入れを拒否、自分らで事実調査をするとして、二六日調査報告を出した。それによると、パレスチナ人が投石をしてきたので自己防衛のために「仕方なく」発砲した、しかし発砲による死者は一八人で他の三人は発砲によるものではない、という。パレスチナ人そして他のアラブ国家のイスラムの人民もこの虐殺に対し、ゼネストで抗議をした。

他方で、一〇月二〇日にはエルサレムでパレスチナ青年がナイフで、イスラエル女性兵士、警官とユダヤ人の三人を殺し、もうひとりをけがさせるという行動が行われ、その後も同種の闘いが続いている。

ガザでは、パレスチナ人が獄中で殺され、それを自殺したとイスラエル当局が発表したことに対して、パレスチナ人民が抗議、ゼネストと実力行動が行われ、イスラエル当局は外出禁止令を発し、徹底した弾圧を加えたのである。

そして、今度は、一月五日に、ニューヨークで極右カハ運動のリーダー、メイル・カハネが暗殺された。その報復として、被占領地で数時間も経たないうちに二人のアラブ人老農婦がユダヤ人入植者に銃殺されている。明らかに全体的にシオニスト・イスラエル政権の方が攻撃

的・挑発的である。この時期、ガルフ危機に隠れてパレスチナ人に対する武力弾圧を徹底し、インティファーダの解体を狙つてゐる。四七、四八年当時と同様の恐怖によるパレスチナアラブ人追放を狙つてゐるのである。

このシャミール政権の攻撃性の根拠になつてゐるのは、ソ連東欧圏からの移民の増大である。一〇月の移民統計は一万一〇〇〇人にのぼつており、内大半はソ連からである。毎日七〇〇人がイスラエルに入国してゐる勘定になる。「ミリタリーバランス」によれば、むこう数年間で一〇〇万人の移民を受け入れることは、イスラエルの潜在的な軍事力を大きく高めることになる、という。マルタ会談での副産物としてのイスラエルへの大量移民は、まさにイスラエルにとって米ソ協調の恩恵であつた。あわせて、東欧諸国のイスラエルとの国交回復がつぎつぎと行われ、あたかも国際的な承認が打ち固まり、さらにガルフ危機でのアラブ世界の分岐とPLOがイラクを支持する立場をとつて、欧洲に対して孤立的となつてゐるとの対照的である。

レバノン問題において、シリアがレッドライン（アワリ川）をこえないかぎり、シリアの動きに手出しをしないということは、他方でゼネスト・リティゾーンの実質的な切り取り併合を逆にシリアと米帝に認めさせるということである。西岸・ガザからのパレスチナ人労働者の締め出しが行われている一方で、南レバノンからの労働者がかなり増えているという。そして、通貨や諸施設のイスラエル化が進行している。

イスラエルにとって、今は被占領地の「イスラエル化」の実質を作るうえで絶好のチャンスなのである。いつたんは放棄してもいいというような発言をしていたゴランについても、最近は譲歩の余地のないことを強調している。イスラエルはやはり大イスラエルを構想しているの

だけではなく、イラクやイランそしてアラブ諸国に対して、帝国主義諸国に對してシリアのレバノンにおける主導権を完全に認めさせたという意味において成功である。すでにシリアは、米帝などとの合意を取りつけていたといわれる。アウンに対する軍事的攻撃については米帝は容認していたし、イラクに対する米帝との協調を取りつけるためにも、シリア支持をしていただろうことは容易に推測されることである。米帝はシリアの展開に対するイスラエルの動きをも警戒し、牽制していたであろう。イスラエルはアワリ川をレッドラインと呼び、それ以南へのシリア軍の展開には警告を發している。ということは逆にそれ以北については手出しをしないということでもある。アウン攻撃にシリア空軍が登場してもイスラエルが動かなかつたのは、たんに偶然というだけではないだろう。シリアにとっては、レバノンは經濟的命脈となつていてもあろう。なぜなら、ソ連が軍事的經濟的にバックアップしていいた時代と違つて、より自力更生を強いられている現在、かつてのようなイスラエルとの戦略バランスの均衡維持は困難になつてゐる。その分、アラブのなかでのエジプト・サウジとの関係を強化しつつ、帝國主義諸国とも一定の協調関係を保ちつつ、自國の經濟建設を強化し、二一世紀への展望を見いだそうとしている（一一月一〇日、サウジ外相、エジプト外相がダマスカスで、シリア外相ならびにアサド大統領と会談を行つてゐる。当然議題は、ガルフ問題とレバノン再建問題である）。

レバノンの内戦が終結したと直ちにいえることを取りつけるためにも、シリア支持をしていただろう。なぜなら、レバノン内戦は、内的には半封建的な地縁・血縁を土台にした各宗派利害の対立という形での階級闘争の表現であったし、外的にはイスラエル拡張主義とそれに対するパレスチナ・レバノン進歩勢力の戦場として、かつ仮帝や米帝そしてアラブ諸国の抗争の集中した表現としてあつたからである。イスラエルが南部レバノンを上領し続け、決して譲歩することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、仮帝主義が押しつけた「国民憲章」（四三年）に基づく第一共和制の解体と、タイフ合意に基づく第二共和制の開始である、とハラウィ政権は宣言している。レバノンにおけるフランスの力の武装を解除することはできないことだけをとっても直ちに内戦が全面的に終結することはないが、これは、南北の内戦が全面的に終結することによって、米帝をはじめとする帝国主義勢力による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結とは

ろう）。そこでレバノンの安定化＝經濟的な活性化、特に港の稼働はシリアにとって死活問題ともいえるのである。

第二に、レバノンのマロン教徒（キリスト教徒）派を頂点とする宗派的支配構造の再編が開始されたということである。もちろん、これはレバノンの内戦が終結したと直ちにいえることではない。なぜなら、レバノン内戦は、内的には半封建的な地縁・血縁を土台にした各宗派利害の対立という形での階級闘争の表現であったし、外的にはイスラエル拡張主義とそれに対するパレスチナ・レバノン進歩勢力の戦場として、かつ仮帝や米帝そしてアラブ諸国の抗争の集中した表現としてあつたからである。イスラエルが南部レバノンを上領し続け、決して譲歩することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結することはないが、はつきりしているのはマロナイトキリスト教徒による宗派支配政治体制は終わりを告げたということである。大ベイルート構想は、南北の内戦が全面的に終結とは

である。ただ、米帝にとってはこうしたシャミール政権よりも、労働党政権の方が共同しやすい。

米帝にとって、現在アラブとイスラエルの対立が大きくなり、緊張していくことは、好ましくないが、シャミール政権では対立を拡大する可能性がある。

それゆえ、米帝はイスラエルの攻撃的な動向に対しても警戒をしている。労働党は、しかし、選挙をやっても勝利する可能性は小さく、米帝は現状ではシャミール政権をコントロールするしかないのである。

いずれにせよ、イスラエル現政権はユダヤ移民を大量に受け入れることによって、実質的に、パレスチナ人を追い出し、支配していく物質的な条件ができるいくことから、より攻撃的に挑発的に政策展開していくであろう。それに対し

て、パレスチナ解放勢力は、防御的にならざるをえない。その対応をめぐって、パレスチナ解放勢力は模索している。そして、敵イスラエルの暴力的攻撃に対してあらゆる手段をもって対応していくことが問われている。また、モロッコのアラブ首脳会議のよびかけに即応えていこうとしたように、イラクの展開に対しても、一定の距離をおかざるをえなくなっている。アラブ諸国の分裂は、パレスチナ解放勢力にとっては、不利な条件を形成している。しかし、被占領地パレスチナ人民のインティファーダの持続性は、イスラエル内の矛盾を激化させ、アラブ諸国内の政権、特に王制の国家に対する反乱を強化する条件を形成し、反帝反シオニズムの闘いの統一の糸となっている。

## エルサレムでの虐殺非難声明

一九九〇年一〇月一〇日 パレスチナ中央評議会

一九九〇年一〇月二三日 チュニジア

一九九〇年一〇月一〇日から一二日の間、パレスチナ中央評議会（PCC）はチュニジアで通常会議を開催した。

会議に先立ち、イスラエル占領軍および極右セツラーの暴挙から聖地アル・アクサ・モスクを、自らの体で防衛せんとしたがために撃ち殺された我が人民、誇り高きインティファーダ、エルサレムの聖地防衛の犠牲者に捧げる一分間の黙とうが行われた。参加者は、彼らへの鎮魂のためコーランの「ファティフア」の最初の節を暗唱した。加えてパレスチナ中央評議会（以降中央評議会と略）は、被占領地全域における我がパレスチナの戦闘の大衆、とりわけ、エルサレムのアラブおよびモスラームの寺院、アル・アクサ・モスクを攻撃し、汚さんとする敵の陰謀に対する勇敢な決起を称え、高く評価するとともに、この正当な対決・決起は、すべての人民および自由の戦士たちからの支持を得ている

ここに中央評議会は、この問題に関する特別声明として、エルサレムにおいて、そしてすべての我らが被占領地において鬪っている我らが人権を訴えること、すなわち、国際的なレベルにおけるイスラエル政府の犯罪行為を非難すること、保護を訴えること、イスラエル政府の犯罪行為を黙認し、パレスチナの大義とエルサレムの聖地としての問題に関わる国際的に正当な決議・決定とその適用に向けた国連安保理の役割を混乱せしめていたアメリカ合衆国の立場を暴露することを表明する。その他にも、アメリカ合衆国政府は、イスラエルの占領とその犯罪的政策を利するような決定を行うため、いろいろなところでの圧力をかけ続けてきた。

中央評議会は、PLO執行委員会の活動、パレスチナ・アラブ・国際レベルにおけるその果たしている役割、とりわけガルフ危機に関連した壊滅的戦争を回避しアラブレベルでの政治的平和的解決を求める努力や、現在の劇的な変化と錯綜の状況下でのパレスチナ・アラブの利益を防衛するための活動と役割に関するアラブファト議長からの全面的かつ重大な政治報告を受けた。そして討議を行った後、中央評議会は以下の決定を行った。

うに働きかけることを要求する。これは、アラブ領土の上に「大イスラエル」を建設する目論みの前提としてあり、したがって、長期的な戦争と紛争を引き起こすものであるからだ。

四、中央評議会は、ガルフ危機に関してその最初の段階から、アラブ内での解決のため、米国をはじめとする外国の介入を終わらせるため、アラブ民族に対してだけでなく、世界の平和と経済、そして全人民の利益に対し、破滅的結果をもたらしかねない戦争の勃発を阻止するため採られ、表明してきたPLOの立場、アラブアト議長の果たしている役割を評価する。

中央評議会はここに、国際的に正当な決議に従つた、地域のあらゆる問題や事態の相互に関連したバランスのとれた解決を要求する。それこそが、地域のみならず国際的な安全と安定を保証する唯一の方法だからだ。

さらにいえば中央評議会は、国際的合法性として分離不可能なものであるガルフ危機の政治的・平和的解決の追求、その根本問題としてあるパレスチナの大義・レバノン危機・ゴラン高原の問題を当然含んだ、中東危機の解決への尽力を一体のものとして行うべきであり、それは、アラブのコンセンサスに沿つた決議として実行されるべきである。

三、さらに中央評議会は、シオニストの移民政策、とりわけソビエト・東欧その他を自らの母國とするユダヤ人に対してパレスチナの地へ移住するように仕向けるシオニストの移民政策、U.S.や他の国際的な支援と資金援助をもつて展開されているユダヤ人の移民を阻止するための努力の重要さを強調する。この件に関して中央評議会は、この移民政策は国際法・国連憲法・国際人権宣言を破るものであり、何よりも我々の民族的権利、大地に対する、ひいてはアラブ民族全体に対する攻撃としてあることを再確認する。したがって、ここに中央評議会は、全世界にこの非常に危険な政策を止めさせるよ

うに働きかけることを要求する。これは、アラブ領土の上に「大イスラエル」を建設する目論みの前提としてあり、したがって、長期的な戦争と紛争を引き起こすものであるからだ。

四、中央評議会は、ガルフ危機に関してその最初の段階から、アラブ内での解決のため、米国をはじめとする外国の介入を終わらせるため、アラブ民族に対してだけでなく、世界の平和と経済、そして全人民の利益に対し、破滅的結果をもたらしかねない戦争の勃発を阻止するため採られ、表明してきたPLOの立場、アラブアト議長の果たしている役割を評価する。

中央評議会はここに、国際的に正当な決議に従つた、地域のあらゆる問題や事態の相互に関連したバランスのとれた解決を要求する。それこそが、地域のみならず国際的な安全と安定を保証する唯一の方法だからだ。

さらにいえば中央評議会は、国際的合法性として分離不可能なものであるガルフ危機の政治的・平和的解決の追求、その根本問題としてあるパレスチナの大義・レバノン危機・ゴラン高原の問題を当然含んだ、中東危機の解決への尽力を一体のものとして行うべきであり、それは、アラブのコンセンサスに沿つた決議として実行されるべきである。

三、さらに中央評議会は、シオニストの移民政策、とりわけソビエト・東欧その他を自らの母國とするユダヤ人に対してパレスチナの地へ移住するように仕向けるシオニストの移民政策、U.S.や他の国際的な支援と資金援助をもつて展開されているユダヤ人の移民を阻止するための努力の重要さを強調する。この件に関して中央評議会は、この移民政策は国際法・国連憲法・国際人権宣言を破るものであり、何よりも我々の民族的権利、大地に対する、ひいてはアラブ民族全体に対する攻撃としてあることを再確認する。したがって、ここに中央評議会は、全世界にこの非常に危険な政策を止めさせるよ

うに働きかけることを要求する。これは、アラブ領土の上に「大イスラエル」を建設する目論みの前提としてあり、したがって、長期的な戦争と紛争を引き起こすものであるからだ。

四、中央評議会は、ガルフ危機に関してその最初の段階から、アラブ内での解決のため、米国をはじめとする外国の介入を終わらせるため、アラブ民族に対してだけでなく、世界の平和と経済、そして全人民の利益に対し、破滅的結果をもたらしかねない戦争の勃発を阻止するため採られ、表明してきたPLOの立場、アラブアト議長の果たしている役割を評価する。

中央評議会はここに、国際的に正当な決議に従つた、地域のあらゆる問題や事態の相互に関連したバランスのとれた解決を要求する。それこそが、地域のみならず国際的な安全と安定を保証する唯一の方法だからだ。

さらにいえば中央評議会は、国際的合法性として分離不可能なものであるガルフ危機の政治的・平和的解決の追求、その根本問題としてあるパレスチナの大義・レバノン危機・ゴラン高原の問題を当然含んだ、中東危機の解決への尽力を一体のものとして行うべきであり、それは、アラブのコンセンサスに沿つた決議として実行されるべきである。

三、さらに中央評議会は、シオニストの移民政策、とりわけソビエト・東欧その他を自らの母國とするユダヤ人に対してパレスチナの地へ移住するように仕向けるシオニストの移民政策、U.S.や他の国際的な支援と資金援助をもつて展開されているユダヤ人の移民を阻止するための努力の重要さを強調する。この件に関して中央評議会は、この移民政策は国際法・国連憲法・国際人権宣言を破るものであり、何よりも我々の民族的権利、大地に対する、ひいてはアラブ民族全体に対する攻撃としてあることを再確認する。したがって、ここに中央評議会は、全世界にこの非常に危険な政策を止めさせるよ

そして地域のあらゆる危機・問題に対する政治解決の重要さの一體性・連関性に関する国際的理解の高まりを称賛する。これに関して中央評議会は、フランスのミッテラン大統領の提案、それへのイラクの回答、ソビエトや中国の対応、ECC決議、ユーロ・ソビエト共同声明、およびその他の同じ目的性を持つた国際的対応に示されている前向きの姿勢を評価する。

しかしながら中央評議会は、我が人民の立場はアメリカ合衆国の侵略の脅しに対し、およびイラク人民に向けられた封鎖に対するイラクの立場とともにあることを再表明する。加えてアメリカ合衆国の反イラク・キャンペーンは、実は、アラブ民族大衆への侵略を意味しているとされる。なぜならそれは、地域全般を征服せんとするものであり、その資源・富を略奪し、人民の主権をコントロールし、我が民族・アラブ全体の権利、帰還・自決そして独立国家といったパレスチナ人民の権利も含めて、ないがしろにするものだからである。またこうした計画は、実際にはガルフ危機のずいぶん前から企てられていたことを、我々は特記する。そして中央評議会は、ガルフ危機をアラブ内部の問題として解決できるよう、アラブ地域におけるアメリカ合衆国の軍事存在をなくすよう努力することを強化する。それによつて、アラブ民族全般の安全保障、アラブ全域でのアラブの未来と利益を確実なものにするためである。

中央評議会は、ヨルダンとの連帯を表明し、その勇敢な民族的・汎アラブの立場、そしてい

を拡大するというイスラエルの連続的に出した公式声明は、より緊張を高め、問題を複雑にした。イスラエル政府のこうしたすべての野蛮な行為に引き続いて、人種差別主義者・ファシスト・極右のセツルグループとともにシオニスト占領当局は、聖なるアル・アクサ・モスクの中庭で、もつとも残酷で、恐ろしい犯罪を犯した。それは、二一人のパレスチナ人の虐殺と二〇〇人の自傷者（その大部分は重傷者）をもたらした。この犯罪は、我が人民を恫喝し、自分の家を無理やり捨てさせるために、占領当局によってなされている一連の虐殺と関連しているだけでなく、アル・アクサ・モスクを奪い、他のパレスチナ人のテリトリーをも略奪しようとする動きと関連している。この点、我々は自己犠牲も辞さず我々の聖域を守り、敵の計画を破産させるために闘つている強固な英雄たちに敬意を表すものである。

そのうえ、このシオニストの新しい犯罪は、世界中がイラク危機に目を奪われているのを利用し、インティファーダを攻撃し、一掃しようとするシャミール政府によって、補足的にはアラブ寄りを見せかけたアメリカのイラク侵略のステップのために仕組まれたものである。もう一度言ふなら、この犯罪は、アラブ全体が聖地エルサレムからアラビア半島において同じ戦争を闘つてることを証明するものであり、また、地域の異なる危機の解決、とくにパレスチナとアラブ・イスラエル紛争の解決とが相互に関連していることは明確である。

この点我々は、我が人民に対する虐殺に対して、国連安保理で表明された国際社会によつてとられた態度表明では、我が人民の息子たちに対するイスラエル当局の虐殺への対応としてはあまりにも不十分で、不満足なものだと思うし、我が非武装の人民を防衛する責任を引受け、自分たちを防衛する人民の正当な権利と、そのためにあらゆる手段を取るのは当然といふ信念を支えるものたりえていないと考える。

世界の人々は、対応の不十分を考慮せず、逆に、イスラエル兵士たちの神経を痛めつけ、そのモラルを打ち碎くことによつて、より多くの損失を彼らに与えるために、より多くの犠牲を払い闘争をエスカレートすることによってしか、我が正当な権利を敵が認めないとどうよく知られた歴史の真実を具体化している人々、つまり、倍にしてやり返してくる人々に注目している。このため、我が勇敢な大衆の断罪と虐殺者たちに対する暴力的反抗を多くのパレスチナ人たちに余儀なくさせていたのが現在の状況である。この観点から民族統一指導部（以降、統一指導部と略）は、アクサの呼びかけに応え、闘争と殉教の理念を具体的に実現したインティファーダ英雄たちを称賛している。同時に国連統治当局のエスカレートするテロの猛攻撃の結果として生まれた同様の行動やバカ・ナビヤコープその他の最近の暴力的事件について、占領当局と国連安保理がその責任を負っていると言

わざるをえない。統一指導部は同様に、我が大衆に対するなされる犯罪がもたらす結果について占領当局に警告する。暴力は暴力を生むだけでも生産的なものを作りださないし、唯一の解決は、イスラエルがパレスチナ人の平和イニシアチブに応え、国際平和會議を持つことによってもたらされること、そして、それまで国連は、二つの聖なるモスク——アル・アクサとドーム・オブ・ロック——を破壊し、彼らのテリトリートリの野望を実施しようとして発表した人種差別的・ファシスト的な声明につけ加えて、ソビエトからのユダヤ人移民とその新しい移民を受け入れるためのエルサレムにおけるセツルメント

ろいろな脅しや圧力に抗して堅固な立場を貫いていることを高く評価する。

五、中央評議会は、いくつかのアラブのメディアによって我が人民とその指導部に対して行われている不公正で意図的・部分的情報や政治的情報を非難する。そうした粗野なキャンペーンは、パレスチナの大義とアラブ人民にいからである。この件に関して中央評議会は、いくつかのガルフ諸国がパレスチナ人を追放するという不公正な行為に出たことを非難するともに、それら諸国がそうした行為を中止し、アラブの人民を結ぶ兄弟的友誼を保持し、アラブ内における対立的感情を植えつけようとする悪意ある勢力を打ち叩くように呼びかけるものである。

最後に、中央評議会は、この新しい情勢展開は新たなPNCの開催に向けた準備を緊要なものとしていることを強調する。したがって中央評議会は、執行委員会・PNC議長団、およびパレスチナの指導部にこの大会の準備に入るように要請する。

加えて中央評議会は、イエメンの統一に祝意を表す。この称賛すべきステップが、包括的なアラブの統一への序章たらんことを願うものであり、かつこの統一したイエメンが、パレスチナの闘いとアラブ民族の大きな支援者たらんことを願うものである。中央評議会はまた、チュニジア。その人民と大統領に対し、この中央評議会の会議開催への支援、パレスチナの大義へのおよびインティファーダへのチュニジアのあらゆるレベルでの支持・支援に深く感謝するものである。

我らが殉教者に榮光と不滅の名譽を！

我らが革命とインティファーダに勝利を！

### 独立一周年記念声明

声明No.64 PLO/UNL(民族統一指導部)

一九九〇年一〇月一九日

「我が国の自由と独立を防衛する闘争を継続しよう」

勇敢なインティファーダの息子たちへ

オヨウン・カラ（シオン地区）の血の日曜日の虐殺、ブレイジ、ジェニン、ジャマイレにおけるこの前の流血の抑圧行動の後に、そして、二つの聖なるモスク——アル・アクサとドーム・オブ・ロック——を破壊し、彼らのテリトリートリの野望を実施しようとして発表した人種差別的・ファシスト的な声明につけ加えて、ソビエトからのユダヤ人移民とその新しい移民を受け入れるためのエルサレムにおけるセツルメント

店は一日中開かねばならない。  
八、一月のその他の日は、建設と協同の日である。

我が人民の息子たちは、家を破壊されたり逮捕あるいは放された人々に対して、彼らの家の再建や彼らのオリーブの取り入れを助けることによって、連帯と团结を示す。

学校が閉鎖されているので、我が被占領下のホームランドのすべての町で補助学校を開くこと、学生には特別の注意が払われるべきである。

我が隊伍を真に固めよう。さらに、さらに、統一しよう。街頭に出て、組織され集中されたあらゆる形態の行動と抵抗を実践しよう。我がクリスチヤンとモスレムの聖なる寺院の防衛とそのための警戒を高めよう。シオニストによるアル・アクサ・モスクの虐殺は、勝利の日をより近づける転換点となつたことを自覚しよう。

七五〇日間に及び、レバノン中のイスラム・民族主義勢力、そしてパレスチナ勢力のほとんどがこそぞつて非難してまた反乱軍アウンが作つた異常な事態に終止符が打たれた。多くのパレスチナ勢力は、シリア軍の支援を受けたレバノン

## 新しいレバノンと パレスチナ人の役割

一九九〇年一月四日(アル・ハダフ)

ンの合法的軍隊がアウン打倒の軍事作戦を成功裡に行つたことを歓迎し、レバノンの政治が大きな分岐点に達したとみなしている。そこで次はどうなるかという疑問が生じる。

東西ベイルートの通過検問をなくし、境界線を除去した。ダニー・シャモー一家暗殺事件はあったが、相対的な緊張緩和のムードが広がっていくのは自然である。この新しい状況は、渴望されてきた真の国民統一政府の樹立をレバノン人民が真剣に望んでいることを示している。この政府は、自らの問題を、そして汎アラブ民族の問題すらも解決していくうえで、活発な役割を果たすであろうし、タイフ合意を実行し、かつ深めさえするために、すべての民族的・民衆的・イスラム的勢力を代表していくだろう。なぜなら、それらの諸勢力は、一九八二年のイスラエルによるレバノン侵略期には反占領の抵抗を行い、山岳部を解放し、ベイルート蜂起に積極的に参加し、スーサー・ガルブ戦闘の時期には東西ベイルートの境界線を破り、アウン現象の開始に対しても当初から抵抗してきた。これららの諸勢力は、タイフ合意の眞の実行をやり遂げ、アラブとしての性格（アイデンティティ）とレバノンの民主的発展について誰よりも関心があり、かつ統一を重視している。

さらに、この大きな政治過程は、今後、軍がいかなる党派のカードにもされず、イスラエル占領軍をレバノン国境外へ追い払い、汎アラブ民族課題に奉仕する目的に向かうこと、民族主義の土台の上に軍を統一していくことにおいて、

レバノンの合法権力がレバノンの民族主義的・イスラム的勢力の確信を得ることになるだろう。これは、この新しい軍隊建設において、軍を再編・再訓練・装備させ、民族主義勢力を参加させることで達成されるだろう。そうしてこそレバノン再建とその軍が全レバノン市民のものになる。

したがって、現在頻繁に耳にする国民統一政府の形成を可能たらしめ、信頼を合法政権が獲得するためには、すべての解決においてレバノン民族主義勢力の役割に焦点をあて、彼らの諸権利を保証することが必要である。こういう政府は、軍に大ベイルート全域への平和的な展開を行う権威を与えることができる。この意味において、民兵の解散と港や公的機関・すべての公共施設——本来それはすべての市民に平等に、宗派（派閥）の分け隔てなくサービスを提供するという基本の上に再開されるべきものなのだが——に合法政府の権威を行き渡らせることが、そしてそれに合意したいくつかの勢力からの元気づけられる信号を見てとることができる。

しかし、民族的勢力・イスラム勢力には、その民兵勢力を解体する前に自分たちの正当な要求が保証され、満たされるよう求める権利がある。この関連において、レバノン合法政府は、レバノン-ペレスチナ関係、それを強固な基礎の上にうちたてる必要性について再考しなければならない。しかもそれは、レバノンの主権・統一・アラブとしての帰属性を強化し、同時に

-11-

ル・アクサの流血事件に非常に責任ある立場を取り、虐殺に抗議して街頭に出て非難し、パレスチナ人民との連帯を表明しているゴラン・ヨルダン、そして他のアラブの大衆を称賛する。統一指導部は、パレスチナ大衆とともに、幾人かのドルーズ兵士がアル・アクサ・モスクの聖なる中庭で、パレスチナ人の流血に参加していたことに不快感を表明する。したがって我々は、ドルーズ、とくにアル・シェイク、アミン・タリーフの兄弟たちに、パレスチナ人の兄弟たちの流血に巻き込まれないように、パレスチナ被占領地域において、ドルーズ兵士たちが任務につかないようにすすめることを要求する。一九八九年一月一五日に生まれたパレスチナ国家の独立二周年にあたって、統一指導部は、力・ユニス、ラファアそしてヤバドにおいて警察本部を攻撃し、イスラエルの横暴と対決し、闘う準備をしていることを表明する。そして、この大衆的対決のみが勝利を勝ち取る明確な方法であること、今も強固になされている統一と團結こそが、二周年目にあたって、我がパレスチナ国家へ提供できる最高のプレゼントであることを強調し、大量に街頭に出て闘っている我々が人民の息子たちを称賛する。これこそが分裂を克服し、勝利を必然的に勝ち取る明確な方法であり、それは我々が促進しようとしてきたものである。

●インティファーダの英雄たちへ

●インティファーダの英雄たちへ  
統一指導部は、我が聖地の防衛に関して責任を引き受けて闘うことを呼びかける。あなたたちの隊列をより密集すること、あなたたちの統一をより強固にすること、そして、あなたたちの熱望と組織され集中した方法によって、占領を拒否することを呼びかける。つけ加えて、以下のことがあなたたちに要求される。

一、イスラエル当局は、パレスチナ個々人から課徴金を取ることによって大量の金を集めている。それゆえ、占領当局に損失を与えるといふ立場から、自己犠牲を恐れぬ我が人民の息子たちは、税金の支払いを拒否し、税金を支払うようまじろる誓約へ行くことを選ぶであらうこ

の祝日である。パレスチナの国旗を掲げ、祝宴年を祝うために、民族衣装で着飾るようにして、他方、戦士との連帯を表明するために、怪我をした同胞や殉教したり獄中にいる家族への訪問をしよう。

五、一月一九日は、偉大な指導者、殉教者・イシデイン・アル・カーセムの記憶を呼び起こすための活発な活動の日である。

六、一月二九日は、パレスチナ人民との連帯の日である。

大衆は街頭に出て、我が人民の権利と国際的大衆は街頭に出て、我が人民の権利と国際的保護を求める呼びかけの掲示物を掲げよ。

七、一月七日、一五日、そして二五日には、

ル・アクサの流血事件に非常に責任ある立場を取り、虐殺に抗議して街頭に出で非難し、パレスチナ人民との連帯を表明しているゴラン・ヨルダン、そして他のアラブの大衆を称賛する。統一指導部は、パレスチナ大衆とともに、幾人かのドルーズ兵士がアル・アクサ・モスクの聖なる中庭で、パレスチナ人の流血に参加していたことに不快感を表明する。したがつて我々は、ドルーズ、とくにアル・シェイク、アミン・タリーフの兄弟たちに、パレスチナ人の兄弟たちの流血に巻き込まれないよう、パレスチナ被占領地域において、ドルーズ兵士たちが任務につかないようすすめることを要求する。一九八九年一月一五日に生まれたパレスチナ国家の独立二周年にあたつて、統一指導部は、カ

傾けないようにと繰り返し述べている。この記念日に際し、統一指導部は、パレスチナ人の唯一・正統な代表であるPLOへの結集・固い統一とその意志によって、また、パレスチナの平和イニシアチブを堅持することによって、インティファーダを担う人民は、パレスチナ人民になされた虐殺を、逆に、インティファーダとさまざまに抵抗をより高め、救済の日を、そして、民族自決権の達成とパレスチナ独立国家の建設の日を早めることになるだろうということを強調する。

この関連で、アラブ人労働者の家の返還に關する、イスラエル当局によつてとられた最新の基準は、イスラエルの政策の失敗を物語る新たな証明以外のなものでもない。

とを信じる。統一指導部はまた、弁護士が課徵金を支払うという妥協をして、拘留を免れさせることのないよう呼びかける。というものも、我々は監獄を闘争のための学校と考えていいし、戦士にあってはこうした学校に参加することは名譽あることだと思うからである。

二、一九九〇年一二月一日、忌むべきバルフォア宣言の日は、注目すべき闘争の日である。パレスチナの旗を掲げよ。占領兵士とセツラーのギャングに対する闘争を強化せよ。世界中のコミュニティーは、パレスチナ人民の要求に応えることが求められる。

三、一月八日、九日、そして二〇日は、我が人民になされた虐殺に反対する抗議のゼネストの日である。

めの会議を開く。それが犯罪を構成する場合には、その犯人は「関係当局」に引き渡される。  
六、この合意は、一月一〇日以後効力を有するものである。

三、イクリム・トファーハ地区における、離散者（避難者）の帰宅・帰村を行うことに同意する。

四、この会議の実施、それをフォローするためガジ・カナーン旅団長とハッサン・アクタリ駐ダマスカスイラン大使を含む監視（委員会）を形成する。

五、八九年のダマスカス合意に付随するものに従って、どの党派によるどのような犯罪行為も監視委員会に報告すること。同委員会は報告もよざしてから、その犯罪事例を取り扱うこ

赤軍聲明

うすることによって「国内外で天皇の権威を宣言すること」を意味している。即位式に各国の元首を呼ぶことによって、かつてアジアへの血の侵略をもたらし、アジア人民から排斥され、打倒された天皇制を、再び国際的に認めさせようとするものである。またそれは、祝賀によって、再び天皇を日本人民の元首に据えようというも

一、我々日本赤軍は、一一月二二日から始まる天皇・現人神交替の儀式である「即位の礼」と「大嘗祭」開催を糾弾する。

我々は、反帝国主義の立場に立つすべての人民、平和を愛する人民が日本人民とともにこの儀式を糾弾することを呼びかける。

うすることによって「国内外で天皇の権威を宣言すること」を意味している。即位式に各国の元首を呼ぶことによって、かつてアジアへの血の侵略をもたらし、アジア人民から排斥され、打倒された天皇制を、再び国際的に認めさせようとするものである。またそれは、祝賀によって、再び天皇を日本人民の元首に据えようというも

1990年12月31日 第62号 月刊 中東レポート

パレスチナ人民の民族的目標の達成のためのすべての形態の闘いを実践し継続する権利を維持する方向性において行われるべきである。とくに強調するべきなのは、両者の関係性の強化と発展は、レバノンの合法政府とPLO・唯一の合法的なパレスチナ人民の代表との直接で正式の、建設的で真摯な対話の開始にかかっているということである。そしてそれは、相互承認という基礎の上になされるべきである。それは、レバノン合法政府が他の国々がそうしているようにパレスチナ国家として処遇すること。パレスチナ人民の一部であるレバノンに在住するパレスチナ人の利益と関心を擁護するパレスチナ大使館をベイルートに開設し、その外交活動の自由を保証するということである。

に入れねばならないことである。そしてこれは、  
政治的・社会的・軍事的行動を通して実現され  
うるし、それはまた、被占領地における我が人  
民のインティファーダを支援することになる。  
また、特記すべきは、パレスチナ・キャンプの  
治安はP L O の主要な責務の一つだということ  
である。

こうした基礎の上に、パレスチナ＝レバノン  
関係は、南部レバノンを解放し、レバノンにお  
けるパレスチナ人民の継続的な参画を確実なものとするという、共通の目標に役立つよう組織されるべきである。それは、民族的権利を勝ち取るパレスチナ人民の闘いの過程にかなうものである。もちろんこのことは、すべてのレバノン人を代表する眞の国民統一政府の形成を必要としているが、レバノンの人々は疑いもなく、今なお、一九七五年のレバノン内戦の開始以来、パレスチナ人民がいつたい何度、虐殺と破局と追放キャンペーんの対象とされてきたのか、そして、レバノンとそのアラブへの帰属性を防衛するためにどれほどの犠牲を払ってきたのかを忘れてはいないと我々は確信する。我々は常に、全国至る所に安全を保証する統一し安定したレバノンを支持している。だからこそ、レバノンの我が兄弟たちが、我々を一民兵として扱わなければいけないことは当然のことととらえる。なぜなら、パレスチナ人は国家当局に対して敵対しないし、パレスチナ人が希求してやまないのは唯一、すべてのアラブ民族主義者たちの全幅の支援を背に、パレスチナ国家を樹立するまで闘い続けることのみだからである。

一、南部レバノンへのレバノン軍の展開を促進し、法と秩序の適用におけるその役割を支援することに、両派は賛同する。

二、八九年のダマスカス合意の完全な適用に同意する。もしいずれかの条項での解釈の違いが表面化した場合には、両派はそれを、シリアとイランの代表に持ち込み、その解釈と判断に

## アマルとハズバッラーの和平合意

## アマルとハズバッラーの和平合意

三、「即位の礼」「大嘗祭」は、天皇が新たにその地位に着くためのたんなる儀式だということではない。それは、天皇を神に祭り上げ、そ

中国大陆を侵略し、滿州帝国というかイタリア国家をデッчи上げたばかりでなく、さらに東南アジアと太平洋にも侵略した。アジア・太平洋地域の人民は、世代を絶いでこの歴史を記憶に留めている。

- ・ 国連安理会エルサレム虐殺事件でイスラエル非難声明。
- ・ バグダッド、学童が制裁非難デモ。
- 一〇月一五日（月）
- ・ シャローン、エルサレム地区へのセツル拡大計画を発表。
- 一〇月一八日（木）
- ・ イラク大統領、長期戦体制、食糧増産を呼びかけ。
- 一〇月一九日（金）
- ・ イラク石油相、ガソリン・エンジンオイルの制限を打ち出す。
- 一〇月二〇日（土）
- ・ 米国、在欧米軍戦車を年内にガルフへ移す、と発表。
- ・ エルサレムでペレスチナ青年がイスラエル女性兵士・警官ら四人を殺傷。
- 一〇月二一日（日）
- ・ レバノン、ダニー・シャモーン一家暗殺事件。
- ・ イラク軍、クウェートで没収したフォーカミサイルの訓練を行っている（ワシントン・ポスト誌）。
- ・ 各国で反米・反戦デモ（東京二万、パリ五万、ニューヨーク一万多等）。
- 一〇月二六日（金）
- ・ シャミール調査報告、「ボリは自己防衛のために発砲、その死者は一八人。三人は別の原因で死亡」と。
- 一〇月二七日（土）
- ・ 米国務省、地域特定（東地中海の船、欧州）

**編集後記**

- ・ 中東の飛行機（）のテロを警告。
- ・ プリマコフ、「イラクは撤退か戦争かのラスト・チャンスだ」と警告。——調停失敗。
- 一〇月三〇日（火）
- ・ リビア、P.L.F.（アッバース派）を追放。
- ・ イオージマ（米軍艦）爆発事故、一〇名死。
- 一〇月三一一日（水）
- ・ アマル・ハズバッラー停戦に合意。
- 一一月一日（木）
- ・ イラク、人質家族のクリスマス訪問を許可するとの発表。
- 一一月二日（金）
- ・ イラク紙、「もし米軍の攻撃が行われれば一回の戦闘で決まるものではなく、侵略者も犠牲者を伴い、全面的なものになる」
- 一一月三日（土）
- ・ ガザ、政治囚が獄中で殺されたことから、人民の大蜂起、弾圧（三日間続いた）。
- 一一月四日（日）
- ・ ブッシュ・サッチャーテle電話会議。各国によるイラク訪問に警告。
- 一一月五日（月）
- ・ 極右シオニストのカハネ、ニューヨークで暗殺（このニュースの後、ユダヤ人によるアラブ人攻撃多発）。
- 一一月六日（火）
- ・ ヨルダンのフセイン、戦争は人命損失だけでなく、環境破壊問題を引き起こす。
- 一一月七日（水）
- ・ レバノン政府、正式に大ベイルートセキュリティ

- 六、米帝は、ヒットラーとナチズムを決して許してはいない。にもかかわらず、天皇ヒロヒトと天皇制についてはその戦争犯罪と侵略にもかかわらず、恩赦を与えた。なぜなら、怒濤のごとく前進する日本革命の大きな流れを食い止め、アジア革命の防波堤として利用するために、米帝は天皇と天皇制を最大限利用しようとした。米帝は、第二次世界大戦後の反共帝国主義という世界戦略の前線基地として日本を組み込もうとした。それゆえ米帝は、天皇とその犯罪に加担した。

- 七、こうした儀式を何が何でも強行しようとして自民党政権は、右翼天皇主義による白色テロ攻撃を悪用しつつ、反天皇感情を明確に表明したりする自由や、日本人民の反天皇運動を抑止し続けてきた。さらに政府は、組織破防法による恫喝をもって、革命的左派勢力と全面的対決の方向に向かっている。

- こうした反革命・反人民的行動に対して、人

九、我々日本赤軍は、「即位式」「大嘗祭」や自衛隊の海外派兵策動を阻止するために闘うことを表明する。

再度我々は、全世界人民が反帝の立場に立て、平和を愛する人民と共に闘うこと呼びかける。

「即位の礼」と「大嘗祭」粉碎！

八、自民党政権はガルフ危機に乗じて、「自衛隊」を海外に派兵しようと画策している。この動きは、軍国主義の道を押し開き、軍国主義日本の復活を計るための「即位式」「大嘗祭」と連動している。

五、現天皇アキヒトは、戦犯ヒロヒトの息子である。アキヒト自身としては、第一級の戦争犯人である父親ほど手を汚してはいないことを利用して、父親ヒロヒトの戦争責任を免罪し、天皇制を存続させる役割を果たしている。「即位式」「大嘗祭」を通して、現人神・天皇の地位を引き継ぐことによって、アキヒト自身は再び、アジア・太平洋地域を破滅の道に導いたあの父親ヒロヒトと同じ道を歩み始めている。

民と革命左派勢力は日帝の侵略を阻止するために戦闘もまじえた闘いを断固として貫徹している。

九、我々日本赤軍は、「即位式」「大嘗祭」や自衛隊の海外派兵策動を阻止するために闘うことを表明する。

再度我々は、全世界人民が反帝の立場に立て、平和を愛する人民と共に闘うこと呼びかける。

「即位の礼」と「大嘗祭」粉碎！

**重要日誌**

一九九〇年一〇月一一日  
一一月一〇日

- 一、我々日本赤軍は、一一月一二日に行われる天皇アキヒトの「即位式」は、日本軍国主義と拡張主義の復活の一里塚であり、この儀式への参加は、この復活を支持することに他ならないと断言する。天皇制はナチズムと同様、アジア・太平洋地域への侵略と独裁を正当化する理念と体制である。
- 二、民主的・進歩的社会は、この儀式と天皇

四、我々日本赤軍は、日本軍国主義の復活阻止・天皇制粉碎のために闘う決意を表明し、全世界の平和を愛する人々に、自國の元首がその儀式出席のために日本へ行くのを阻止するよう呼びかける。

三、ガルフへ日本の「自衛隊」を派兵しようの儀式は、アジア・太平洋地域およびその他の世界中で、人々の上に君臨する権利を持つ現人神に、アキヒトがなるためのものだからである。

四、我々日本赤軍は、日本軍国主義の復活阻止・天皇制粉碎のために闘う決意を表明し、全世界の平和を愛する人々に、自國の元首がその儀式出席のために日本へ行くのを阻止するよう呼びかける。

三、ガルフへ日本の「自衛隊」を派兵しようの儀式は、アジア・太平洋地域およびその他の世界中で、人々の上に君臨する権利を持つ現人神に、アキヒトがなるためのものだからである。

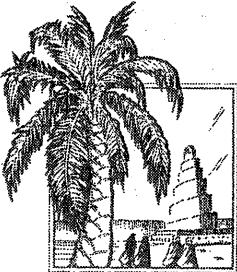
五、アウン追放とレバノン再建とガルフ危機を軸に、今号は展開してみました。シリア空軍機の出動は、アウンにとってだけでなく、レバノン国民全体にとって突然の目醒めだったでしょう。

また、対アウンの最前線の一部を担っていたパレスチナ革命は、今回の攻撃には参加の余地なしといった状況、まさか、こんなに簡単にカラタがつくとは考えていかなかった、というのが一般的な反応。それが余計に、民兵解体の対象に含まれてしまうのではないかという思いを強く

させてしまう原因の一つです。

・アウンが追放され、東西分界線がなくなり、ペイルートは再び統一され、平和が訪れようとしています。とはいっても、本当の終了、そして再建にはまだかなりかかります。バーブダの大統領官邸は、破壊度が激しく、修復するよりも新しく造ったほうが合理的と発表されていますが、東西ラインを中心に二八年間の戦争の傷跡は人々の心の中においても同じことがいえるでしょう。そして、南部をイスラエルに占領され、ガルフでは、いつ始まるかわからない全面戦争の軍事的緊張が続いている。そのバランスの中に平和があることを忘れてはならないでしょう。

一方、日本では「国連平和協力法」なるものが、廃案に追い込まれましたが、同法案、即位の礼・大嘗祭、厳戒体制、破防法云々は、アジアの人々に古傷を甦らせるには十分すぎますし、現人神云々は、今まで日本を好意的にみていた人々にも大きな疑問を与えていました。ここに、帝国主義本国人民と第三世界の進歩勢力・人民との連帯・相互支援、そして共に反帝の闘いを押し進めていく環の一つが見いだせます。



## 月刊 中東レポート・広告

- |     |            |                        |
|-----|------------|------------------------|
| 51号 | 90年1月31日刊  | パレスチナ独立国宣言一周年とレバノン和解憲章 |
| 52号 | 90年2月15日刊  | 89年中東情勢の捉え返し           |
| 53号 | 90年3月31日刊  | マルタ会議後の中東情勢            |
| 54号 | 90年4月15日刊  | ユダヤ人「移民」問題とアラブ・パレスチナ   |
| 55号 | 90年4月30日刊  | シオニスト内部の分裂             |
| 56号 | 90年6月10日刊  | 東欧の激動と、中東の新しい流れ        |
| 57号 | 90年6月30日刊  | アラブの統一の動き              |
| 58号 | 90年7月31日刊  | ソ米サミットと緊急アラブ・サミット      |
| 59号 | 90年9月17日刊  | シャミール「戦争内閣」と米帝の矛盾      |
| 60号 | 90年10月31日刊 | イラクのクウェート軍事併合とアラブの解決努力 |
| 61号 | 90年12月6日刊  | アラブ民族主義の分解の構造と統一の展望    |

合本 月刊 中東レポート

1985年9月1日 第1号

1989年11月30日 第50号

限定発行

残部僅少

50,000円

謹賀新年

1991年元旦

今年もよろしくお願ひします。

東京編集